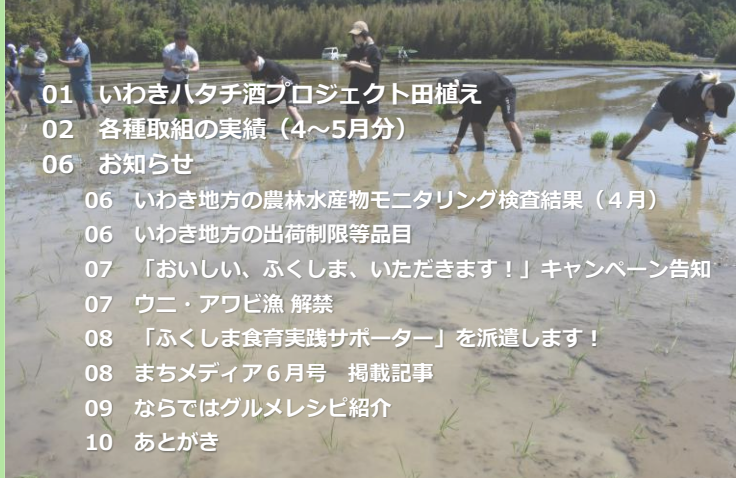


いわき 農林水産 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和8年 5月号 Vol.255

発行日 2026/5/28



- 01 いわきハタチ酒プロジェクト田植え
- 02 各種取組の実績（4～5月分）
- 06 お知らせ
- 06 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（4月）
- 06 いわき地方の出荷制限等品目
- 07 「おいしい、ふくしま、いただきます！」キャンペーン告知
- 07 ウニ・アワビ漁 解禁
- 08 「ふくしま食育実践サポーター」を派遣します！
- 08 まちメディア6月号 掲載記事
- 09 ならではグルメレシピ紹介
- 10 あとがき

いわきハタチ酒プロジェクト田植え

5月10日(日)

これからのお酒の飲み手となる19～20歳や新社会人の皆さんに米作りや酒造りを体験してもらい、完成したお酒で記念の歳を祝う「いわきハタチ酒プロジェクト」を紹介します。

9年目となる今年度は、18名の学生・社会人の参加申し込みがあり、1回目の活動となる「田植え体験」では、このうち11名が参加して福島県オリジナル酒米「夢の香(ゆめのかおり)」の田植えを行いました。これまでのプロジェクトに参加したOB・OGの運営協力もあり、手植えを総勢30名以上で実施。その後、田植機の操作も体験しました。参加者からは「(田植えのときに)思ったより深く足が沈んで転びそうになったが、慣れると楽しく、リズムカルに植えられるようになった。」「プロジェクトの方に丁寧に(植え方を)説明してもらいスムーズに行うことができとても楽しかった。」といった感想がありました。昼食には栽培管理をお願いしている滝 正徳さん(常磐藤原町)が栽培した食用米「ゆうだい21」と酒米「夢の香」等の食べ比べをしました。

9月には稲刈りを予定しており、来年3月のお披露目会に向けて、引き続き活動を進めていくとのことです。

なお、昨年度に作った8期のハタチ酒は、下記の市内販売店で好評発売中。各地のイベントでの出張販売も企画していますので、見かけたらぜひお試しください。

【ハタチ酒販売店】あわのや酒店(平大工町)・澤木屋(平中町)・太平桜酒造(常磐下湯長谷町)

(企画部)



▲9期生



▲説明を聞く参加者



▲田植えの様子



▲田植え機の操作を体験



▲8期生のハタチ酒
写真の商品は、数量に限りがあるため、売り切れとなる場合があります。



春のため池一斉点検

4月6日(月)～8日(水)

農業水利施設の適切な維持管理と長寿命化を図るため、水稻の作付け前となる4月を「施設管理強化月間」と位置付け、毎年、施設管理者などによる点検・診断を実施しています。

いわき市内には164箇所のため池があり、短期間で全てを点検することが難しいことから、いわき市といわき農林事務所が役割を分担して点検を行っています。

いわき農林事務所では、4月6日から8日にかけて、小名浜地区や勿来地区など、市南部を中心とした79箇所のため池を点検しました。

点検では、田植え前のため池の水位が高くなるこの時期に合わせ、堤体の漏水の有無や洪水吐きの越流状況、斜樋の取水状況などを確認しました。あわせて、宅地化が進む地域では、子どもも多く、転落事故の恐れがあることから、安全柵や侵入防止看板の設置状況についても確認し、多くのため池で安全対策が講じられていることを確認しました。

ため池は老朽化が進んでいるものも多く、日頃から施設の状態を把握し、異常の早期発見に努めることが重要です。今後も定期的な点検・診断を継続し、ため池の適切な維持管理と安全確保に努めていきます。

また、地元の水利組合などによる日常的な管理も重要であることから、草刈りや取水操作の際には、ため池の状況確認や異常の早期発見へのご協力をお願いします。

(農村整備部)



▲堤体植生・はらみだし等の確認（下堤池）



▲余水吐の確認（松母衣池）



▲波除工の確認（鞍掛池）



▲安全看板の確認（東田下池）

いわき市営牧野が開牧

4月20日(月)・23日(木)

4月20日に三和町の芝山牧野、4月23日に川前町の荻牧野が開牧し、放牧開始日には、牛の感染症等を確認するための採血や、外部寄生駆虫剤の塗布も行われました。放牧頭数については、黒毛和種の繁殖雌牛が芝山牧野において10頭、荻牧野において13頭であり、11月まで放牧される予定です。

放牧の費用は、牛舎で飼養すれば1頭当たり約17万円かかるところ、約6万円と安価(11月まで放牧、270円/日)であるだけでなく、牛が丈夫になるとともに管理労力も削減できます。

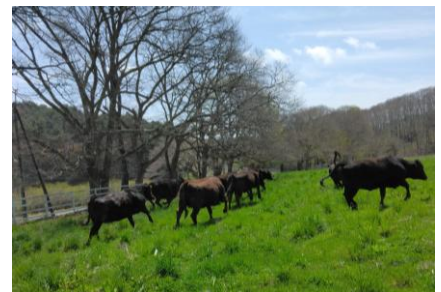
放牧を希望される繁殖農家の方は、いわき市農業振興課へお問い合わせください。

(電話番号 0246-22-7479)

(農業振興普及部)



▲繁殖雌牛の採血作業



▲緑の草原に一目散

高校生が麦わらファーム(いわき市四倉町)で青パパイアの苗植え 4月23日(木)

麦わらファーム(いわき市四倉町)で青パパイアの苗植えが行われました。今回は磐城農業高校生(2年生)5名が参加し、麦わらファーム代表の佐久間英行さんから植え方について説明を受けた後、苗を48株植えました。

参加した高校生からは「意外と畑の土が硬くて掘るのが難しかった。」「昨年は学校でパパイアを栽培したが、苗植えをするのは初めてだった。(苗植えのときに)結構たくさんの水が必要だと分かった。」等の感想が聞かれました。参加した生徒たちは、収穫時にも再び訪れる予定とのことでした。

(企画部)



▲磐城農業高校2年生・教員と麦わらファーム代表 佐久間さん(前列中央)



▲苗植えの様子



▲青パパイアの苗



▲青パパイアの実(昨年10月撮影)



第1回いわき地域新規就農者等推進会議

4月27日(月)

いわき合同庁舎において、第1回いわき地域新規就農者等推進会議を開催しました。

この会議は、県と市、JA等の関係機関・団体の他、指導農業士会いわき支部、移住コーディネーターを加えた7組織で構成されており、新規就農に係る相談や、就農準備、就農後の定着に向けた支援等について情報を共有し、検討・協議を行っています。

いわき地域における農業担い手のより一層の確保に向け、各関係機関と連携・協力を密にして就農へ向けた取り組みを進めてまいります。

農業法人への就職や自営就農、他分野からの法人参入として新規就農を検討している方や農業に興味がある方は、まずは農業振興普及部へご相談ください。

(電話番号 0246-24-6162)

(農業振興普及部)



▲会議の様子

地すべり防止施設の定期点検

5月7日(木)

地すべり防止施設は、農地や農業用施設だけではなく、地域に暮らす方々の家屋や人命を守る大切な施設です。いわき農林事務所では施設の機能を維持し、安全・安心な地域づくりにつなげるため、毎年定期的に点検を行っています。

今年は、管内の上荒川地区と上平石地区で点検を実施しました。各地区にはおよそ10箇所の施設があり、その多くが山間部に設置されています。

点検は、水抜きボーリング工や承水路工、集水井工などの施設について、破損や目詰まり、ひび割れ、沈下などがないかを確認しました。中には整備から30年以上が経過している施設もあるため、異常の早期発見に努めながら、必要に応じて補修や更新計画に反映し、適切な維持管理を行っています。

また、地すべりの前兆として、農地のひび割れや井戸水の濁りなどがみられる場合があります。周辺にお住いの皆さまにおかれましても、普段と異なる変化に気付いた際は、早めに農林事務所までご連絡くださいますようお願いいたします。

(農村整備部)



▲承水路工の確認(上荒川)



▲水抜きボーリング工の確認(上平石)

磐城農業高校の生徒 約150名が「福笑い」の田植えを体験 5月12日(火)

県立磐城農業高校の実習田で、株式会社相馬屋、株式会社マルトとの3者共同の取組として、福島県産オリジナル水稲品種「福笑い」の田植えが行われました。

青空のもと、1年生約150名が先生や先輩の指導を受けながら手植え作業を行いました。水田に足を踏み入れると、その感覚に思わず悲鳴を上げる生徒がいたり、足を取られ転倒しかける生徒がいたり、大盛り上がりでした。参加した生徒からは「歩きづらく大変だった」「苗が倒れることがあり、植えるのが少し難しかった」等の感想が聞かれ、手植えに苦戦する様子もありましたが、終始笑い声の絶えないひとときとなりました。

今回植えた苗は9月中旬に収穫し、10月下旬頃には、生徒による商品開発や販売実習を予定しています。

(企画部)



▲青空のもと作業する生徒たち



▲水田に入る様子



▲苗を植える様子

福島県森林組合連合会いわき木材流通センター創立31周年記念市 5月18日(月)

現在、いわき市内の人工林は植えてから50年を超えたものがほとんどで、利用期を迎えています。そこから産出される木材を流通・販売する機関として木材市場があります。いわき市内では、現在、木材市場が2箇所あり、地域の木材の利活用において重要な役割を果たしています。

この度、そのうちの1つで遠野町にあり福島県森林組合連合会が運営する木材市場「いわき木材流通センター」において、創立31周年記念市が開催されました。

記念市では、買方が販売されている木材を確認し、購入を希望する木材の購入希望価格をそれぞれ入札箱に投入していきましました。また、記念市式では、福島県森林組合連合会の田子会長による挨拶の後、式典に出席した来賓より祝辞が述べられました。

県としては引き続き、木材の利活用促進のため、木材市場をはじめ関係団体との連携を強化してまいります。

(森林林業部)



▲田子会長挨拶



▲入札箱の様子



いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（令和8年4月分）

□農林畜産物の検査結果

令和8年4月の農林畜産物モニタリングでは、11品目20検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありません。

内訳は（表1）のとおりです。

（表1）品目と検体数

アスパラガス（施設）1、ニラ1、タラノメ1、ネギ1、ふき（野生）1、わらび（栽培）10、原木しいたけ（露地）1、おおばぎぼうし（うるい）（野生）1、うわばみそう（野生）1、牛肉1、原乳1

□海産魚介類の検査結果

令和8年4月の水産物モニタリング検査では、125検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

いわき地方の出荷制限等品目

令和8年4月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

（表2）農林畜水産物の出荷制限等品目（令和8年4月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※1 わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限り、（市内該当生産者23名のみ）

※2 野生きのこは、摂取も制限されています。

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施します！

株式会社マルト商事主催のイベント「マルト 生産者さんとつながる市」にて、県産農林産物の魅力や市内生産者の認証GAPの取組を消費者に紹介する「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催します。

キャンペーン当日は、アンケートにご回答いただいた先着200名様に福島県の高校生などが育てた「#青春GAP米」をプレゼント。その他にも、県産農林水産物を購入した方は抽選に参加することができます。カプセルトイを回して、お米や6次化商品等がもらえるチャンス！皆様のご来場をお待ちしております。

※内容は変更となる可能性があります。(企画部)

■日時：5月30日(土) 09:00~15:00
(配布物がなくなり次第終了)

■場所：マルトSC平尼子店 店頭屋外スペース
(いわき市平尼子町3-1-1)

■主催：福島県いわき農林事務所

第1回
おいしい
ふくしま
いただきます!
キャンペーン

日時 令和8年5月30日(土) 9時00分~15時00分
(配布物がなくなり次第終了)

会場 マルトSC平尼子店
(いわき市平尼子町3-1-1)

イベント内容

① 福島県産農林産物認証GAP、6次化商品のPR
② 福島県産農林水産物を購入した方にカプセルトイが回せる抽選券をプレゼント!
当選品例：お米、6次化商品など

先着200名

GAPに関するアンケートにご回答いただいた方へ 福島県の高校生などが育てた #青春GAP米 (2合) をプレゼント!

先着200名

アグリ☆ファイブによるPR

アグリ☆ファイブとは?
いわきを代表する農産物(梨、ネギ、コム、トマト、いちご)と、動物たちをモチーフとしたキャラクター。農家の皆さんを応援するために、そして、いわきの美味しいお米や野菜を全国にお届けするために、仲間とともに大好きないわきを、いっぱい元気にしていきます!

アグリ☆ファイブ
＜梨・ネギ・トマト＞

認証GAP【ギャップ】とは?
農産物の生産工程を記録・改善していくことで、より安全・安心な農産物を消費者の皆さんに届けるための取組です。

JGAP 日本GAP
FGAP 食品GAP
ASIAGAP アジアGAP

【主催・お問い合わせ】 福島県いわき農林事務所 企画部 ☎ 0246-24-6197

ウニ・アワビ漁解禁

いわき地区のウニ・アワビ漁が令和8年5月1日に解禁しました。

ウニの初水揚げは5月1日で、いわき市漁業協同組合に所属する下神白地区の採鮑漁業者がウニ40kgを水揚げし、同地区の加工施設に持ち込み、92個の貝焼きに加工しました。貝焼きは、ホッキ貝の殻の上にウニの生殖巣(可食部)を盛り付けて蒸し焼きにしたもので、いわき地区の特産品となっています。貝焼きは、当日のうちに市内の産地魚市場に出荷され、3,660~5,410円/個で販売されました。

一方、アワビの初水揚げは5月7日で、市内6地区の採鮑漁業者が約62kgを水揚げしました。当日、市内の産地魚市場に集約・出荷されたアワビは、18,000~29,000円/kgで販売されました。

今後、ウニ漁は8月、アワビ漁は9月まで続く予定です。

(水産事務所)



▲ウニの貝焼き



▲水揚げされたアワビ

「ふくしま食育実践サポーター」を派遣します！

県では、食生活改善、地域の食文化や郷土食の伝承等の活動を先進的に実践する方々を「ふくしま食育実践サポーター」として登録し、学校、幼稚園、保健所、公民館、企業等が実践する子ども等を対象とした食育活動を支援するため、要請に応じて派遣しています。食育実践サポーターには、農林漁業者、酪農家、栄養士、野菜ソムリエなど、さまざまな分野の方が登録されています。

いわき管内の食育実践サポーターの派遣を希望される団体等は、下記ホームページから活動申込書をダウンロードし、当所企画部までお申し込みください。

併せて、食育実践サポーターとして活動頂ける方も募集中です。ご関心のある方は、お気軽に下記お問い合わせ先までご連絡ください。

※食育実践サポーターの派遣にかかる経費（報償費・旅費）は県が負担します

※子どもを対象とした食育活動、もしくは子どもの食育に関する講話等の活動が対象です

■お問い合わせ

いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

TEL : 0246-24-6197 FAX : 0246-24-6196

■申込書ダウンロード（福島県 いわき農林事務所ホームページ）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/iwnorin-k26404.html>

■福島県農産物流通課ホームページ

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/supporterseido.html>



「まちメディア」6月号 掲載記事

福島県いわき農林事務所

貴重な自家飼育の日本きじ肉 を使った料理

「きじや」を紹介します！

川前町にあるそば・うどん屋の「きじや」では、日本きじ肉を使用した「きじおこわ」や、「きじうどん」、川前町産等のそば粉を使用した「打ち立てそば」を提供しています。

提供されるきじ料理には、川前町の豊かな自然の中で、のびのびと育てられた日本きじを使用しています。

「きじおこわ」には、川前町の清らかな水と肥沃な田んぼで丁寧に育てられたもち米「こがねもち」を使用しています。

「打ち立てそば」には、主に川前町産の挽き立てのそば粉と良質な水を用い、その日の朝に打ったそばを使用しています。

いずれも川前町の豊かな自然の恵みを味わえる一品となっています。皆様もぜひお試しください。

店舗紹介

店主からの一言

川前町の豊かな自然ときれいな水が育んだ食材を、丁寧な仕込みをして美味しさを引き出しております。
ぜひ、食べにきてください！



きじや

創業12年目のそば・うどん屋

一 営業時間

土・日・月曜日 10:00-14:00
(毎年1~3月は冬季休業)

きじおこわのふるさと納税のURLはコチラ！



きじうどん



きじ肉と、きじガラをじっくり煮込んで出汁をとったつゆを使用しており、素材の旨みを感じられる優しい味わいです。

きじおこわ



噛めば噛むほど「こがねもち」のもちもちとした食感が楽しめ、きじの出汁と野菜のうま味が口いっぱいに広がります。

数量限定
お早め！



「挽きたて」「打ちたて」「ゆでたて」の「三たて」となっており、香り高くコシがある、こだわりの一杯となっています。

今月号に掲載した場所はこちら！

- ①あわのや酒店 (P1)
平大工町地内
- ②澤木屋 (P1)
平中町地内
- ③太平桜酒造 (P1)
常磐下湯長谷町地内
- ④芝山牧野 (P3)
三和町上三坂字水田地内
- ⑤萩牧野 (P3)
川前町下桶売字萩地内
- ⑥県森連いわき木材流通センター (P5)
遠野町深山田字柳久保28-2
- ⑦きじや (P8)
川前町下桶売字芹ケ作110-46

いわき市
MAP



あとがき



あとがき

5月に入り、急激に気温が上がりましたが皆さま体調はいかがでしょう。まもなく6月になりますので、油断せずに暑さ対策をしたいですね。

今月号の特集記事は田植えでした。ハタチ酒プロジェクト参加者や、磐城農業高校の生徒が植えた苗はどのように育つのか、今から収穫が楽しみです。

そして、米といえば…5月30日(土)にマルトSC平尼子店で「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーンを実施します。アンケートにご回答いただいた方には嬉しいプレゼントもありますので、皆様ぜひお越しください。(担当S.M)

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
 (県いわき合同庁舎 3階)
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース